

午後 I 試験

問 1

問 1 では、プロジェクトのリスク管理について出題した。全体として正答率は高く、おおむね正しく理解されていた。

設問 1 では、早い段階からステークホルダの協力を得て、協働して開発を進めた狙いを問うたが、“スケジュール遅延を防ぐ”などのように一般論の解答が散見された。新たな業務プロセスの導入に起因するスケジュール遅延リスクの軽減が目的であることを、理解してほしかった。

設問 2(5)では、現システムのデータの整理・検証を徹底して行うことで回避しようとしたリスクを問うたが、“テストがうまくいかない”などの一般論の解答が多かった。入力間違いや入力漏れのあるデータが移行されることによって発生する、正しい点検票が表示されないというリスクを正しく指摘してほしかった。

設問 3 では、追加要求に対応することで抱え込む、開発工数が増えること以外のリスク要因を問うたが、結果の事象だけを記述してリスク要因を正しく記述していない解答が多かった。取引実績のない Z 社に開発を委託しなければならないというリスク要因を抱え込む点を正しく認識してほしかった。

問 2

問 2 では、コミュニケーションに課題を抱えたプロジェクトを題材にして、顧客とのコミュニケーションやチーム内のコミュニケーションをどのように捉え、どのように改善していくか、について出題した。チーム内のコミュニケーションについて問うた設問 3 は正答率が高かったが、顧客との関係の改善について問うた設問 1(2)、設問 2(2)は正答率が低かった。

設問 1(2)では、請負契約における発注者の責任を意識して解答してほしかったが、“A 社システム部が要求のとりまとめを行う”など、部分的な作業分担に限定した解答が多かった。また、“不記載・未提示要件は対応しない”という解答もみられたが、顧客満足を回復することを目指しているこのプロジェクトマネージャ (PM) の状況を考えれば、このような紋切り型の対応だけでは不十分なことを、理解してほしかった。

設問 2(2)では、A 社システム部のニーズがどこにあるか、その緊急度や重要度を意識して解答をしてほしかったが、状況にふさわしくない僅かな効率化や、顧客の意図にそぐわない効率化を解答するものが目立ったのは残念だった。PM にとって、顧客の視点は常に忘れてはならないものである。改めて認識してほしい。

問 3

問 3 では、EVM を用いた進捗管理を行っていく過程で、進捗遅延に対しどのように対応するか、潜在する品質低下リスクをどのように回避するかなどについて出題した。設問 1、設問 2(5)、設問 3(1)の正答率が低かった。

設問 1 では、表 1 から、人事外部設計チームの時系列的な変化に着目して解答してほしかったが、4 週間目の時点だけの遅延に着目する解答が散見された。また、EVM の各指標値の定義を適切に理解できていないと思われる解答も散見された。

設問 2(5)では、クリティカルパスに着目し、設計要員の追加投入を行わないと遅延回復が困難な状況であることを解答してほしかったが、スケジュール遅延拡大だけの解答や、進捗ではなく結果であるマイルストーンが守れそうにないという解答が多かった。状況判断においては、明確な判断基準を用いることが重要であることを理解しておいてほしい。

設問 3(1)では、“課題管理対象となった課題が全て解決していることの確認”などの課題管理表の一般的な利用方法に関する解答が目立った。“仕様確定に手間取った箇所もその都度、課題管理表に記録している”点を踏まえ、どのような品質低下リスクを回避できるのかを考えて解答してほしかった。